



寒さが一段と厳しくなってきました。体調管理に留意して、充実した年末年始をお過ごしください。冬休みが明けると、卒業式までに登校するのはあと3週間。1日1日を大切に最後まで学校生活を謳歌しましょう。本通信は次号が最終です。



1 月の予定



		行事	弁当
1	水	元日 学校閉鎖期間 (~1月3日)	
2	木		
3	金		
4	土		
5	日		
6	月		
7	火		
8	水		
9	木		
10	金		
11	土		
12	日		
13	月	成人の日	
14	火		
15	水		
16	木		
17	金		
18	土		
19	日		
20	月	始業日 (全校朝礼) 地理コンテスト (1限 9:00~9:30) 卒業研究第1稿(90%完成)提出 17:00	要
21	火	委員会最終日	要
22	水		要
23	木		要
24	金		要
25	土		
26	日		
27	月		要
28	火	全校朝礼 授業最終日 オーサービジット (5~7校時) 卒業研究清書提出 (17:00 締切)	要
29	水	梅干し弁当募金⑧ 卒業研究発表会準備① (終日) 職員会議 (15:40~)	要
30	木	卒業研究発表会準備② (終日)	要
31	金	卒業研究発表会 (終日)	要

☆ 行事予定は暫定のものです。大きな変更がある場合には、一斉メールや学校ホームページ等でお知らせいたします。

梅干し弁当募金

12月13日(水)に行われた梅干し弁当募金は、みなさまのご協力により、**総額 22,100円** 集まりました。今回は日本児童養護施設財団が運営するクリスマス寄付サイト「あしながサンタ」に寄付いたします。ご協力ありがとうございました。

留学生が来ました。

12月4日(水)から、13日(金)まで、オーストラリア・ブリスベンの姉妹校からの短期留学生アメリカさんをお迎えしました。短い期間ではありましたが、茶道や弓道体験、クリスマスウィッシングに参加して、日本文化と札幌聖心を満喫していきました。



弓道体験

12月4日(水)の午前中に北ガスアリーナで弓道体験を行いました。



Congratulations!!

○第 26 回高校生小論文コンクール

個人部門 読売新聞社賞 伊藤理央

○小原流 2024 学生いけばな競技会 北海道・東北地区大会

準優秀賞 日下 羽乃

クリスマス・プラクティス

12月2日から12日まで、イエス・キリストのご降誕をお祝いするための心の準備をすることを目的に、朝礼前や休み時間に一人ひとりが沈黙を守るように心がけました。その成果としてお米またはカイロを持ち寄りました。

集まったお米とカイロは12月25日に“うえるかむほうず”にお届けします。



クリスマス・ウィッシング

12月13日(金)にクリスマス・ウィッシングが行われました。生徒と教職員、そして保護者の方をお招きして、札幌聖心での最後のクリスマスをお祝いました。



今月のこころのこぼ

「わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう」

(詩編 第62章第2節)



今年もクリスマス・プラクティスを実行し、皆で静けさを創り出し、その実りのお米やカイロを奉獻し、今後ホームレスの方々のところにお届けする予定です。

社会を見渡すと、街はクリスマスで華やかに彩られています。世界にはつらく、苦しいときを過ごしている人々がたくさんいて、そうした方々のために、心を静かにして沈黙し、クリスマス・主イエス様のご降誕を待つことを大切にすることが札幌聖心でのクリスマス・プラクティスでした。

今回紹介する聖書の一節は、「沈黙」について書かれています。ともすると、多くの祈りは、自分の危機的な状況の中で、神に祈り求めながら、神が沈黙していて応えてくれないと右往左往してしまうことが多く見られ、詩篇の中でもそうした祈りが多く出てきます。でも、この祈りは同じような状況であるにもかかわらず、黙って、神を待ち望んでいるのです。騒ぎ立てて、慌てふためくのではなく、むしろ心を静めて、神を待ち望もうという気持ちになっています。

この祈りのように、思い描いた結果を待つのではなく、そこにじっと留まり、主の声を聴くことが大事なときがあります。「わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう」、ここにひとつの答えがあり、札幌聖心で大事にしてきた、クリスマス・プラクティスの答えのひとつもここにあるように感じます。

静けさを創り出して歩んできた、札幌聖心での最後のクリスマス・プラクティスを通して、一人ひとりがささやかでも希望の輝きとなり、そして今後、旅立っていくそれぞれの場所で輝き、暗闇を照らすことができますように、祈ります。

〔校長 齊藤隆浩〕